

岐阜県各務原市

日常業務から 本人の「声」を聴く

令和5年10月13日

各務原市 高齢福祉課

かかみがはらし
岐阜県 各務原市

(令和5年9月1日時点)

人口：145,160人
65歳以上：41,677人
高齢化率：28.71%



■地勢

岐阜県南部の愛知県との県境に位置し、市の面積は87.81km²

市域の多くが平地であり、市北部に標高200～300mの山々、南部に木曽川が流れる

■市の特徴

- ・市内を東西に鉄道（JR・名鉄）が走り、16の鉄道駅がある
- ・市域中央に立地する航空自衛隊岐阜基地を中心に航空機産業等の製造業が集積
- ・街中の公園や、山、川といった自然を活用した施設やイベントを開催



背景



振り返りの様子

令和元年度、認知症講演会の後に
「出張本人ミーティング」を開催

各務原市でも「本人ミーティング」
を開催しよう！と盛り上がったが、
コロナ禍になり、実現に至らず。

令和4年度の取り組み



他市の先進事例の勉強会を開催

認知症地域支援推進員の連絡会（毎月1回開催）に、和歌山県御坊市の谷口さんをお招きし、同市の取り組みについてお話しただいた。



- ・ 本人の声を記録・共有することの重要性
- ・ 既にある取り組みを、本人の声を聴く機会としてとらえなおす

令和4年度の取り組み

1. 本人の声共有シートを作成

- ・「だれが・いつ・どんな場所で・どんな場面で・どんな言葉」を書き留める
- ・認知症地域支援推進員と高齢福祉課が共有できるフォルダに格納
⇒各推進員と高齢福祉課担当が随時更新・確認ができる

2. 既存の取り組みから本人の声を聴く

- ・介護予防事業として実施している「はたけサロン」には、認知症のある方も数名参加されている。



- ・本人の声を聴くことができる場、作業を通じて可能性を見つける場としてとらえなおす。
- ・言葉だけでなく、写真や動画で記録し、推進員の連絡会でも共有。

令和4年度の取り組み

3. 初めて本人ミーティングを開催

- ・「うぬまの森」をよく登っている本人さんがいて、体を動かすことがしたいという思いがあった。

- ・一緒にハイキングをしながら交流をしたら楽しいのではないか



- ・「ハイキングinうぬま森」を開催

- ・眺めの良い休憩所で、本人と家族で分かれて語り合いの時間を設けた。

- ・本人さんの笑顔がたくさん見られた。



取り組みの気づき

- ・ 本人が発したままの言葉で記録
⇒ 本人の顔が思い浮かぶ。言葉に「その人らしさ」がでている。
- ・ 本人の声を共有する
⇒ 本人の様子が伝わりやすくなった。
- ・ 本人の声を聴く
⇒ 取り組むべきことがみえてくる
⇒ 認知症施策だけでなく、さまざまな施策における原点



今後に向けて

- ・ 一回限りのイベントにするのではなく、継続性のあるものにする
- ・ 本人さんたちと一緒に作りあげていく
- ・ チームオレンジに向けて、
地域の方々（認知症サポーターなど）との連携を図っていく

ご清聴ありがとうございました

